

研究機器相互利用ネットワーク導入の促進 (案)

背景・目的

- 我が国の研究力のすそ野を支える地方大学等において、Top10%論文数が顕著に減少※。若手研究者が独創的な研究を実施するための環境が不足しているのではないか。
(※2013-2015のTop10%論文数がそれぞれ マイナス12% (第3G大学) ,マイナス25% (第4G大学))
 - 近隣の大学等が研究機器の未利用時間を相互に有効活用することにより、若手研究者等の研究環境を改善することが可能ではないか。
 - 他方、物理的に距離がある大学の研究機器等を日常的に利用するには、生きた細胞などを輸送、研究機器を遠隔操作する際等の技術的課題が存在。
- ➔ 研究機関が相互に研究機器等を利活用するための課題を抽出・解決する実証実験を国が実施し、近隣の大学間、大学と企業間の研究設備・機器等の共用を後押し。
- ➔ 大学、企業、公設試等が研究機器の未利用時間を相互に有効活用することにより、産学連携の促進や地域全体の研究力向上が可能ではないか。

比較的地方に多い第3・4G大学の多くが「スタートアップ資金(機器、スペース、スタッフ等)が不十分であること」を課題として挙げている



概要

大学等有する研究設備・機器等を共用し、近隣の大学、高専、企業、公設試等が連携した、研究機器相互利用ネットワーク構築の実証実験を実施

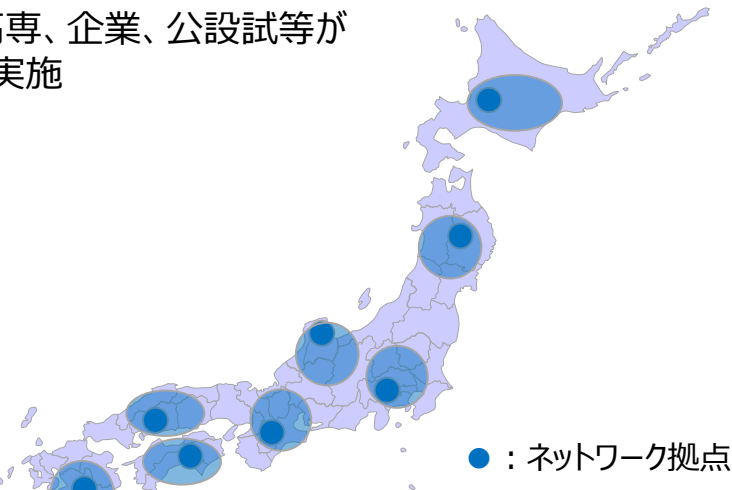
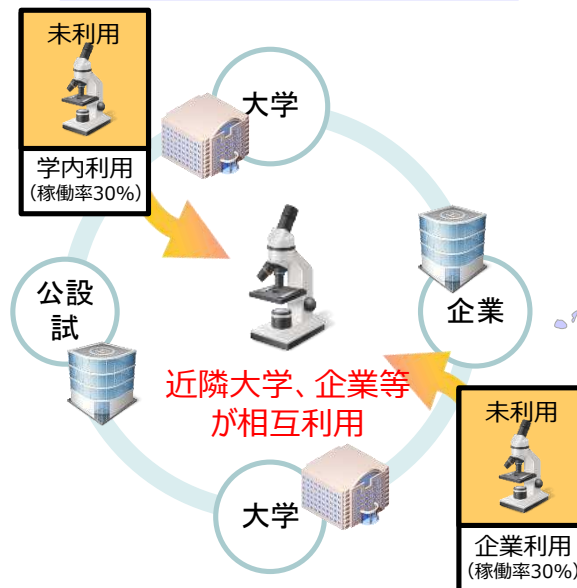
【想定される課題】

- ・機器提供をする機関にいかにかインセンティブをもたせるか
- ・生きた細胞などをどのように輸送し、信頼性を担保するか
- ・技術支援者をいかに育成するか

【ネットワークの条件】

- ・複数大学、企業群、公設試の参加
- ・実施する取組は、
 - 共用環境整備・充実
(機器ソフトウェアのクラウド化、遠隔システム環境の整備、共用システム構築、機器利用マニュアル整備など)
 - 遠隔システム実証
(生きた細胞試料の輸送カプセル作成・試験など)
 - 機器の集約化

研究機器相互利用ネットワーク



- ◆ 地方大学の研究力の底上げ
- ◆ 近隣企業の研究力の向上
- ◆ 生産性の高い研究システムを構築
- ◆ 産学官連携、異分野融合の促進